

新ワクチン

Vaccine News

平成25年 冬号

発行所 田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区北浜2-6-18

監修:川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司 先生

平成25年冬号のトピックス

- 知っていますか? 本当はこわい、水痘(みずぼうそう)
- 水痘にかかったら、次はあなたが感染源です!
- 水痘を予防するには...
- 水痘ワクチンの副反応について
- インフルエンザQ&A



かかるまえにできること

す。妊婦が妊娠初期に水痘にかかった場合には、お腹の赤ちゃんにも感染し、様々な臓器に障害をもつて生まれることがあります。また、出産前後に水痘にかかると、新生児も水痘にかかり重症化する危険性があります。

知っていますか? 本当はこわい、水痘(みずぼうそう)

水痘(みずぼうそう)は、子どもの病気の中で最も身近なもののひとつです。感染症発生動向調査によると、毎年25万人前後が水痘にかかっていると報告されていますが、実際の患者数は、この数倍にあたる約100万人にものぼると推定されています。

また、水痘にかかった患者さんの約80%は5歳までに発症しており、保育所や幼稚園など集団生活の場で流行しやすい病気です。

このような特徴に加え、一般的に軽い病気だと考えられているため、周りで水痘の流行があった際にうつしてもらえばいいと思われる保護者も少なくありません。

しかし、実は「軽い病気」ではない場合もあるのです。まれに、脳炎や肺炎、皮膚の二次性細菌感染症などの合併症が起こることがあり、また、抵抗力が低下している人や、年少児については重症化するおそれがあります。

なお、水痘は子どもだけの病気ではなく、大人もかかることがあります。大人になってから初めて水痘にかかると、子どもに比べて症状が重いとされていますので注意が必要です。

*国立感染症研究所感染症疫学センターホームページの2011年1月~11月までの集計による。

水痘にかかったら、次はあなたが感染源です!

水痘の原因となるウイルスは、私たちの口や鼻からの(気道粘膜)に入り込み、体の中に侵入します。水痘は感染力が非常に強く、発疹が始める1~2日前から感染力をもち、また、水ぶくれの中にもウイルスが含まれているため、かきむしって水ぶくれが破れると、そこから周りの人たちに感染するおそれがあります。

そのため、水ぶくれの周りの赤みが消え、黒いかさぶたがしっかりとできるまで登園、登校はできません。

水痘の重症化に特に注意が必要な人

- 子ども(特に年少児)
- 成人(初めて感染した場合)
- 病気や薬によって抵抗力が低下している人
- 妊婦*

*妊婦はワクチンを接種することができません。

水痘ワクチンの副反応について

水痘ワクチンを接種した後、接種した部分が赤く腫れたり、発熱することがあります。また、接種してから約1~2週間後に発熱や発疹など、水痘のような症状が出ることもあります。症状は軽く、水ぶくれができることはほとんどありません。

かかりつけの小児科医とよく相談し、早めに予防接種をすませましょう。

水痘を予防するには...

水痘は、あらかじめワクチンを接種することで予防できる病気です。

水痘ウイルスの病原性(毒性)を弱めた弱毒生ワクチンを接種することで、水痘に自然感染した場合と同じしくみで免疫ができます。そのため、その後感染を受けた時には、発症しないか、もしくは発症しても症状が軽くなります。

水痘ワクチンを接種すると、90%以上の人はウイルスに対する免疫ができます。ただ、いったん免疫ができて、10~20%程度の人は水痘にかかるといわれています。しかし、この場合でも、多くは自然感染した場合の症状に比べて軽くなり、重い合併症などが起こる危険性は低くなります。

また、水痘にかかっている人と接触してから72時間以内に、水痘ワクチンを接種すると、発症の防止、症状の軽症化が期待できます。ただし、水痘は発疹が始まる1~2日前から感染力があるため、接触した時期がはっきり判らず、接種の効果が得られない場合もあります。

学校保健安全法施行規則により、水痘にかかった場合は、出席停止の扱いになります。

- ・出席停止の場合は、欠席扱いにはなりません。
- ・出席停止の期間の基準→すべての発疹が痂皮(かさ)ぶた化するまで

【主な感染症がはやる季節】

みずぼうそう、インフルエンザの季節です。

	春			夏			秋			冬			春			
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
週	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
麻しん																
風しん																
みずぼうそう																
おたふくかぜ																
インフルエンザ																
感染性胃腸炎(ロタ)																
感染性胃腸炎(ノロ)																
ヘルパンギーナ																
手足口病																
咽頭結膜熱(プール熱)																
浴連菌感染症																
突発性発しん																

一般的な流行時期をご紹介しますが、流行する時期は地域によって異なります。 □ ピーク時 ■ 通年

インフルエンザQ&A

Q 風邪をひいた後、どのくらい経てばインフルエンザワクチンを接種できますか?

A 風邪がおおってから約2週間が経過し、体調が安定していればワクチン接種が受けられます。ただし、経過が長引いたり、慢性化している場合は注意が必要のため、最終的にはかかりつけの医師とよく相談してから決めてください。

正しい知識をもって予防接種を受け、お子さんの健やかな健康を守りましょう。

